

※ 検証は、「練馬区における小中一貫教育校設置の基本方針」（平成20年3月）における「3 小中一貫教育校設置の意義と効果」に即して行う。

<p>期待された効果</p>	<p>① 9年間を見通したカリキュラムを作成・実施することにより、発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導および生活指導の充実を図ることができる。</p>	<p>② 小学校から中学校へ進学する際の段差（学習内容や指導方法の違い）を緩やかなものにし、円滑な移行が図れる。その結果、不登校生徒を減少させることもできる。</p>	<p>③ 幅広い異年齢集団による活動を通じて、豊かな人間性や社会性の育成ができる。</p>	<p>④ 小学校の教員と中学校の教員の相互協力関係が今まで以上に構築でき、学力や体力の向上等の高い教育効果を上げることができる。</p>	<p>⑤ 地域社会と連携した特色ある学校づくりを推進し、魅力ある学校とすることによって、保護者や地域社会からの信頼を得られる。その結果、学校と地域社会の活性化を図ることができる。</p>	<p>(その他) 施設整備、通学区域と学校選択制度、小中一貫教育の課題を解決し推進するための先導的な役割、教育委員会の役割</p>
<p>検証項目</p>	<p>1 9年間を見通した教育課程 2 4-3-2の区分における発達段階に応じた計画的・継続的な学習指導の充実 3 5・6年生の一部教科担任制 4 5・6年生の50分授業 5 個別学習室の活用（少人数指導、放課後補充教室） 6 伝統文化理解教育</p>	<p>1 4-3-2の区分における発達段階に応じた計画的・継続的な生活指導の充実 2 円滑な移行による安定した学校生活 3 不登校や問題行動の現状と推移 4 標準服</p>	<p>1 幅広い異年齢集団活動 2 豊かな人間性や社会性の育成 3 たてわり活動、合同行事 4 部活動 5 統一校名・統一校章・統一校歌</p>	<p>1 小・中学校教員の相互協力関係の構築 2 学力や体力の向上 3 教育課題の実践的な研究 4 小中合同研究、校内研究のもち方 5 小中一貫教育校としての運営 6 学校組織（校長1名・副校長3名体制） 7 兼務発令、校務分掌、組織体制、用務、施設管理、給食、事務など</p>	<p>1 地域社会と連携した生涯スポーツの推進 2 小中一貫教育校による学校・家庭・地域社会の教育力の向上 3 地域社会との連携 4 学校と地域社会の活性化（避難拠点、青少年育成など） 5 PTA組織</p>	<p>1 職員室、東校舎・西校舎、渡り廊下、校庭、ランチルーム、多目的室、プール、体育館、学習室、保健室、相談室ほか 2 通学区域制度の特例、学校選択制度の特例 3 取組と成果の情報発信、小中一貫教育フォーラムと研究発表会、連携した学習指導の方法 4 小中一貫教育校への支援、小中一貫教育の充実・推進</p>
<p>活用する資料</p>	<p>(例) 1 教育課程届 2 学校生活アンケート 3 国、区の学力調査における意識調査 4 学校評価アンケート 5 大泉桜学園の教員からのヒアリング 6 校内研究に関する資料 7 関心・意欲・態度（意識調査）、思考・判断・表現・技能（作品等の事例）、知識・理解（学力調査）等、観点別学習状況の評価に即した資料</p>	<p>(例) 1 入学説明会配布資料 2 学校生活のきまり 3 生活時程表 4 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 5 学校生活アンケート 6 小1問題・中1ギャップの予防・解決のための「教員加配に関わる効果検証」に関する調査結果 7 生徒の作文や感想文等の分析</p>				